

第 1 2 回阿蘇地域医療構想調整会議（書面開催）における委員からの意見等について

資料 1 外来医療に係る医療提供体制の確保に関する意見

委員名	意見等	保健所からの回答
辻 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>阿蘇地域の地理的特異性（山間地が多いことにより通院距離が長いこと）や交通手段が少ないことによる医療アクセス不良の記載が必要であると考えます。（一部抜粋）</li> </ul>	<p>阿蘇圏域において、地理的特性等により住民の通院への負担が増加している課題があることや遠隔診療等による医療アクセスの向上が必要であることを追記しました。</p> <p>（3（3）P4）</p>
吉見 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>高森町の小児医療を担っていた山口医院（旧蘇陽町）も高齢化や後継不在のため、閉院されたら困ってしまいます。</li> </ul>	<p>後継者不足等の課題に対して、本県においても、事業承継制度等の後継者確保のための対策について、関係機関と連携し検討を進めることとしています。</p>
甲斐 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の救急医療の需要増に効率的に対応するため、くまもとメディカルネットワークやACPの普及・活用を推進する必要があります。</li> </ul>	<p>阿蘇においても、今後の高齢化の進展による救急患者の増加を踏まえた救急医療体制の確保が課題であると考えため、「救急医療」の分野でくまもとメディカルネットワーク等のICTの活用や、ACPの取組を推進することについて記載しています。</p> <p>（3（7）P6）</p>
山部 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>不足する外来医療機能を確保するために医療機能が充実しているところからの派遣などはないのでしょうか。</li> </ul>	<p>本県では、限られた医療資源を有効活用し、医療機関同士で医師の相互支援を行う体制構築を目的として、熊本県地域医療連携ネットワークを構築しています。このネットワークにより、地域医療拠点病院が外来医療を中心的に担う診療所等を支える仕組みづくりを行っています。</p> <p>また、へき地医療支援機構において、へき地医療拠点病院や社会医療法人等からへき地診療所への医師の派遣調整を行っています。</p>

資料2 医療機能の適切な分化と連携に関する意見

委員名	意見等	保健所からの回答
片山 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師の働き方改革は2024年4月から施行されます。そのため、特に夜間・休日の人材確保が困難となってくる可能性がありますと考えます。</li> </ul>	<p>医師の働き方改革施行に伴う人材確保等については、阿蘇圏域においても課題であると考えているため、追記しました。 (3(2)P4)</p>
片岡 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた医療資源の中で質の高い医療を効率的に提供するため、医療機能の分化や連携は必要ですが、患者が身近な地域で最適な医療を受けられるようプライマリ・ケアの質を向上させるための取組が重要であると考えます。</li> </ul>	<p>阿蘇圏域の患者が身近な地域で最適な医療を受けられるよう、地域の特性に応じたプライマリ・ケア体制の維持を図ることについて追記しました。 (3(2)P3、4)</p>
辻 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>小国公立病院と阿蘇医療センターの役割分担や連携強化の方法等は具体的に記載してほしいところです。 (一部抜粋)</li> </ul>	<p>「重点支援区域」に選定された小国公立病院と阿蘇医療センターの取組については、現在、現状分析等が行われており、今後具体的な内容が決定されます。 具体的な方針が決定し次第、阿蘇地域医療構想調整会議において御報告いただく予定としています。</p>